

令和4年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

申請状況	No.	申請高校・大学名	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名(教員名)	参加予定生徒・学生数	協働する市民活動団体名	主な活動目的・活動内容	活動期間及び報告会予定日	活動内容(分野別)					
										高齢者	子ども	障害者	防災	その他	
申請受付済	1	関西大学	近藤誠司研究室	尼崎市における「防災福祉力」向上プロジェクト	近藤 誠司	22人	尼崎市難病患者団体連絡協議会	尼崎市は南海トラフ巨大地震等が発生した場合、市域で甚大な被害が発生することが予想されている。また大型台風による高潮災害のリスクも高い地勢にある。そうしたなか、難病患者・障害児者、高齢者などの要配慮者は、防災対策を促進することに苦慮している。そこで、「今こそインクルーシブな社会を ～防災福祉の知恵17文字を共有しよう～」と題して、防災川柳を通じて、防災と福祉の両分野における学びを深めた。また、FMアイアイで、気軽に楽しめるサバイバルクッキングを紹介した動画をアップし、啓発を行った。	活動期間：R5.6～R6.2 報告会：R4.11.27(身障会館)					○	
	2		あまおだ「かんご」	ア：本校をHUBとして高校生が地域社会に働きかけ、平時から顔の見える関係づくりに取り組み、災害時に助け合える関係づくりを構築したい。 イ：在宅療養について市役所、尼崎医療・介護連携協議会と協働し、地域社会に啓発していく。高齢者の孤立対策のために高校生にできることを考察し、イベントを実施する。 ウ：「子どもの生きづらさ」をキーワードに研究を深め、高校生にできることを考察し、子ども向けのイベントを実施する。エ：「人権と差別」をキーワードに研究を深め、高校生にできることを考察し、地域イベントを実施する。	福田 秀志	31人	小田地区民生児童協議会	ア：尼崎市民祭りや、あまおだ減災フェスティバルに参画し、小田高校をHUBとして高校生が地域社会に働きかけ、平時から顔の見える関係づくりに取り組み、災害時に助け合える関係づくりを構築した。また、「災害とイレと災害時要援護者」の調査活動において、兵庫県下の6市1町へ、災害時のトイレ対策や指定避難所におけるバリアフリートイレの整備状況についてアンケートを行い、トイレの自助啓発をした。 イ：在宅療養について市役所、尼崎医療・介護連携協議会と協働し、高齢者の孤立対策のために、人生会議についての劇の制作や、あまおだサロンでイベントを行うなど、地域社会に啓発をした。 ウ：「児童虐待」について研究を深め、児童福祉虐待の現状について調査したり、実際に子育てをしている親へアンケートを行い、社会で子どもを育てる課題と虐待の繋がりについて考察した。 エ：「性暴力」について研究を深め、関係機関や校内アンケートを行い、被害の現状や性暴力・性教育についての理解度について認識し、性暴力の加害者や被害者、傍観者がなくなる社会を構築するためには、子どもから大人の全世代が包括的な性教育を受ける必要があると考察した。	活動期間：R5.4～R6.3 報告会：R5.1.28(小田南P)、R5.2.4(小田高校)、R5.3.4(園田東P)	○	○	○	○	○	
	3	兵庫県立尼崎小田高等学校	国際探求「members of a society」	安心して暮らせる環境づくり 難民支援活動および啓発	二森 正人	6人	尼崎市国際交流協会	地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目標として、難民が生み出される原因を解消、また難民を積極的に受け入れることを最終目標に、今年度は、難民問題を広く市民に知ってもらうためのイベントを開催し、難民問題を啓発する「かるた」を市内の小中学生に配布し、啓発活動を行った。	活動期間：R4.4～R5.3 報告会：R5.1.28(神戸外国語大)、R5.2.1(小田高校)、R5.2.4(小田南P)						○
	4		「あまおだ地域応援隊」	地域コミュニティづくり「高齢者の生きがい作り」「子育て世代と共に作る未来作り」「子どもの居場所づくり」「災害時の高校生にできること」の4つの取り組み	難波 滋	30人	杭瀬小学校地域学校協働本部	地域の清掃活動やお年寄りの方にスマホの使い方を伝えるスマホ教室を行うことで、地域にいらっしゃる高齢者との関係性が深まった。また、尼小祭りで、高齢者の方が子供たちと昔遊びを教えるなど、世代間交流が活発に行われた。赤い羽根共同募金活動や飲酒運転防止運動などの地域活動の支援を行った。	活動期間：R5.5～R6.3 報告会：R5.1.21(小田南P)、	○	○			○	○
	5	兵庫県立大学	防災リーダー教育プログラム	地域住民、大学と高校が連携した地域防災力向上のための実践的防災・減災活動	浦川 豪	22人	Human Relations SHIN 杭瀬団地社会福祉連絡協議会 自主防災会	まちあるきツアーを通じて、阪神淡路大震災で被災された方から、震災の教訓や復興の仕組みを教わり、小学校の出前講座で、学んだことを伝えることができた。また、防災とファッションを切り口に、ユニバーサルファッションの要素を含んだ防災グッズを作成し、地域の方々でファッションショーを行ったことで、参加者同士の一体感を生み、地域防災力向上のつながりを育んだ。	活動期間：R4.5～R5.3 報告会：R5.3.4(園田東P)						○
	6	兵庫県立阪神特別支援学校分教室	WORK(喫茶サービス)	喫茶サービス活動を通じた地域活動への参加・交流	村田 敦子	30人	・時友団地連合会	障害のある生徒が、喫茶サービス活動を通じて地域との交流を深め、接客技能と社会性の向上を図り、自己効用感、就労意欲等を高めることで地域福祉活動を担う人材を育成することを目的に、市営時友団地の集会所で入居者等を対象とした月2～4回程度の「ふれあい喫茶」を実施し、喫茶活動を通じて住民同士、また生徒と住民間でゆるやかな見守りの場とする。また、生徒がカフェ運営の視点で、季節ごとの飾りや催しを企画し、取り組んだ。	活動期間：R4.6～R5.3 報告会：R5.1.31(分教室)	○		○			○
	7		黒木ゼミ	地域で支え合う尼崎市の子育て支援について学ぶ	黒木 昌	6人	特定非営利活動法人やんちゃんこ	将来保育職に就くことを目指す学生が大学から地域に目を向け、地域で子育てを支えている「やんちゃんこ」で手作りおもちゃと一緒に作るなど、親子とふれ合う経験を通して、子どもをみる目を養いつつ、地域の実態に応じた子育て支援、保護者や子ども一人ひとりに合わせた関わり大切さを学んだ。	活動期間：R4.7～R5.1 報告会：R5.1.18～2.8パ ネル展示(園田学園大)			○			
	8	園田学園女子大学	江崎ゼミ	地域と大学の宝が。活動を通して、共に学び育つ	江崎 和子	8人	NPO法人スマイルひろば	将来養護教諭を志望する学生が、地域課題に向き合うことで地域課題の解決に貢献することを目的にNPO法人スマイルひろばと連携し、学習支援や遊び支援を行い、学校・家庭以外の温かい居場所の大切さや、こどもたちの言動やNPO法人担当職員からのコメントにより、学生が自分とは違う自線の意見を体感することができた。	活動期間：R4.4～R5.1 報告会：R5.1.18～2.8パ ネル展示(園田学園大)			○			
	9	兵庫県立尼崎西高等学校	地域貢献グループ	地域貢献活動	只石 忠司	30人	大庄元気むら	生徒が、元気むら運営委員会とともに、地域の抱える課題と解決策について話し合い、様々な世代が集まるハロウィンや大庄元気むら文化祭などのイベントを企画・実施し、さまざまな世代の地域の方と交流することの楽しさを学んだ。大庄元気むらで行っている活動を、他の学生にも知ってもらい、気軽に立ち寄ることのできる居場所になるよう活動した。	活動期間：R4.5～R5.3 報告会：R5.3.17(大庄元気むら)	○					○
	10	兵庫県立尼崎北高等学校	芸術鑑賞部	地球・地域とつながる共生ライブ(平和と平常への光 編)	吉田 英一	96人	うさぎ屋 あまがさき環境オープンカレッジ	生徒が様々な境遇の幼児、児童、高齢者の方々や音楽や工作を通じてその時々でできる方法でつながり、世代間の文化の理解や、地域での「共生」を実感することができた。具体的には、子ども食堂との連携では、けいおん教室や工作教室を企画、あまがさき環境オープンカレッジでは、エコあまフェスタのエンディング演奏、塚口西住宅では清掃活動を行った。	活動期間：R4.6～R5.3 報告会：R5.3.24(尼崎北高校)	○	○				○
	11	武庫川女子大学	美味しい漢字教室	尼崎市の子ども食堂における食育教材作りと学習機会の創出	吉井 美奈子	42人	モコモコ倶楽部	子ども食堂の子どもたちと学生の交流を通じて、学習機会を創出していくことを周知した。手法としては、食育と漢字を学べる紙芝居形式のクイズを作ったり、缶バッジ作りを一緒に作り、子どもたちへ食知識や関心、漢字の知識等の定着を図った。また、定着した知識は評価し評価に応じた褒賞を設け、子どもたちが食生活や漢字に対する関心を高めるだけでなく、子ども食堂を何度も利用して交友関係や社会性を育むことができた。	活動期間：R4.4～R5.3 報告会：R5.2.2(ZOOM)			○			
	12	関西学院大学	アカデミック commons プロジェクト 子ども食堂参加プロジェクト なく	子ども食堂晴れるや	村瀬 義史	16人	子ども食堂晴れるや	子ども食堂とのかかわりを通して、活動の中で子どもたちとレクリエーションをしたり、学習支援のサポートを行い、地域の子どもたちに温かい居場所を提供することができた。	活動期間：R4.4～R5.3 報告会：R5.3.29(ZOOM)			○			
	13		児童文化研究会	絵本を通して防災理解を広めるプロジェクト(オリジナル絵本の作成)	椋田 善之	27人	紙芝居サークルどんぐりの会 読み聞かせグループハートフリー	将来保育士や小学校の教諭を目指す学生が、災害時にどのように子どもたちの命を守り抜くか、地域の実態や子どもの防災に対する現状を把握した上で、地域の子どもたちが「我が事化」できる紙芝居やペーパーサート芝居を披露し、イベントの活性化と共に、子どもや保護者の更なる防災意識の向上につながった。	活動期間：R4.5～R5.3 報告会：R5.2.3パネル展示(関西国際大学)			○			○
	14		福祉学専攻インターシップ	持続可能なコミュニティの形成めざした多世代型居場所づくりプロジェクト	尾崎 慶太	23人	企業組合はんしんワーカーズ 三和本通商店街振興組合	はんしんワーカーズグループや活動フィールドの組織団体である三和本通商店街振興組合と協働し、「三和本通商店街50年の歩みを未来へ残すためのアーカイブ化プロジェクト」及び「商店街の空き店舗を活用した人と人がつながる居場所づくり、さんしょの開設」を実施した。商店街や店舗の歴史、店主の想いを伺ったりと、地域の歴史を学んだり、多様な方とのコミュニケーションが育まれた。	活動期間：R4.6～R5.2 報告会：R5.2.3パネル展示(関西国際大学)						○
	15	関西国際大学	地域防災ボランティアサークル「ちーほ」	地域防災×地域交流プロジェクト	岩本 裕子	36人	潮江社会福祉連絡協議会 社会福祉法人阪神共同福祉会	将来、福祉や教育職に就く学生や防災士の資格を取得している学生があまおだ減災フェスでの活動や運営に参画し、地域の防災体制について学び、自主防災会と連携を図ることにより、知識と経験を結びつけた活動を行うことができた。学生にとって、地域の人々の活動を漠然とイメージできていなかったものが、地域の方々との交流で、温かい意見をかけてもらったことで、学生のモチベーションの向上にもつながった。	活動期間：R4.10～R5.3 報告会：R5.2.3パネル展示(関西国際大学)、R5.3.19発表会(関西国際大学)	○					○
	16		つくみるプロジェクト	季節を感じる街づくり Happy・Smile プロジェクト	太西 洋史	28人	アミング潮江商店街振興組合	小学校や幼稚園の教諭を目指す学生が、商店街で行われる子ども向けイベントへの参画や、アミング潮江商店街に参画しているホテルヴィスキオ尼崎1階のショーウィンドウを季節ごとに子ども目線での、四季折々のデコレーションを考えディスプレイ通りの歩く人の目を楽しませ、商店街の活性化を図った。	活動期間：R4.6～R5.2 報告会：R5.2.3パネル展示(関西国際大学)			○			○
	17		キッズレポリューション	子どもが主役の地域を創る キッズレポリューション	大平 誠也	31人	NPO法人ASK	教育学部の学生が、「スポーツを通じた街づくり」を実践しているNPO法人ASKと連携し、子どもたちが安心して遊べる地域を創り、大人も子どもと一緒にバラリピックの種目でもある「ポッチャ」や工作、手作りゲームを行うことで、イベント運営や地域課題に真摯に耳を傾けることができた。	活動期間：R4.6～R5.2 報告会：R5.2.3パネル展示(関西国際大学)			○			○
		10校	17グループ			484人	22団体			6	10	2	6	9	